

# 令和7年度長崎県登録販売者試験問題

## 《午前の部》

問 1 ~ 問 20 医薬品に共通する特性と基本的な知識

問 21 ~ 問 40 人体の働きと医薬品

問 41 ~ 問 60 医薬品の適正使用・安全対策

### <注意事項>

1. 試験時間は、10時30分から12時30分までの2時間です。
2. 必ず解答用紙に受験番号・氏名を記入してください。
3. 解答は、すべて解答用紙に記入してください。
4. 退室は11時30分までできません。11時30分以降退室するときは、必ず解答用紙は裏返しにして机の上に置き、荷物を持って退室してください。問題用紙は持ち帰ってもかまいません。
5. 印刷等の文字が不鮮明なときは、黙って手をあげてください。ただし、試験問題の内容についての質問には一切応じられません。
6. 計算機の使用はできません。
7. 試験監督者の指示に従ってください。

受験番号	氏名

## 【医薬品に共通する特性と基本的な知識】

以下の設問中、「医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律」を「医薬品医療機器等法」と表記する。

### 問1

医薬品に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせを下から一つ選びなさい。

- ア 医薬品は、人の疾病の診断、治療若しくは予防に使用されること、又は人の身体の構造や機能に影響を及ぼすことを目的としている。
- イ 人体に対して使用されない医薬品は、人の健康に影響を与えることはない。
- ウ 一般用医薬品として販売される製品は、製造物責任法（平成6年法律第85号）の対象である。
- エ 医療用医薬品と比較すれば保健衛生上のリスクが相対的に低いと考えられる一般用医薬品であっても、科学的な根拠に基づく適切な理解や判断によって適正な使用が図られる必要がある。

	ア	イ	ウ	エ
1	正	正	正	正
2	正	誤	正	正
3	正	誤	誤	誤
4	誤	正	正	誤
5	誤	正	誤	正

## 【医薬品に共通する特性と基本的な知識】

### 問2

医薬品のリスク評価に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせを下から一つ選びなさい。

- ア Good Laboratory Practice ( G L P )とは、ヒトを対象とした臨床試験の実施の基準のことである。
- イ Good Clinical Practice( G C P )とは、医薬品の安全性に関する非臨床試験の基準のことである。
- ウ Good Post-marketing Study Practice ( G P S P )とは、医薬品の製造販売後安全管理の基準のことである。
- エ Good Vigilance Practice ( G V P )とは、医薬品の製造販売後の調査及び試験の実施の基準のことである。

	ア	イ	ウ	エ
1	正	正	誤	誤
2	正	誤	正	正
3	正	誤	正	誤
4	誤	正	正	正
5	誤	誤	誤	誤

## 【医薬品に共通する特性と基本的な知識】

### 問3

医薬品のリスク評価に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせを下から一つ選びなさい。

- ア 医薬品の効果とリスクは、用量と作用強度の関係（用量-反応関係）に基づいて評価される。
- イ 治療量を超えた量の医薬品を単回投与した後には毒性が発現するおそれがあるが、少量の医薬品を長期投与する場合には毒性が発現するおそれはない。
- ウ 投与量と効果又は毒性の関係は、薬物用量の増加に伴い、治療量上限を超えると、やがて効果よりも有害反応が強く発現する「中毒量」となり、「最小致死量」を経て「致死量」に至る。
- エ LD<sub>50</sub>は、ヒトを対象とした臨床試験で求められ、薬物の毒性の指標として用いられる。

	ア	イ	ウ	エ
1	正	正	誤	誤
2	正	誤	正	正
3	正	誤	正	誤
4	誤	正	正	正
5	誤	誤	誤	誤

## 【医薬品に共通する特性と基本的な知識】

### 問4

健康食品に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせを下から一つ選びなさい。

- ア 保健機能食品は、一定の基準のもと健康増進の効果等を表示することが許可された健康食品である。
- イ 特定保健用食品は、事業者の責任で科学的根拠をもとに疾病に罹患していない者の健康維持及び増進に役立つ機能を、商品のパッケージに表示するものとして国に届出された商品である。
- ウ いわゆる健康食品は、食品であるため摂取しても安全で、健康被害が生じるおそれはない。
- エ いわゆる健康食品は、医薬品との相互作用を起こすことはないため、一般用医薬品の販売時に健康食品の摂取の有無について確認する必要はない。

	ア	イ	ウ	エ
1	正	正	正	正
2	正	正	誤	正
3	正	誤	誤	誤
4	誤	正	誤	誤
5	誤	誤	正	正

## 【医薬品に共通する特性と基本的な知識】

### 問5

一般用医薬品の選択及びセルフメディケーションに関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせを下から一つ選びなさい。

- ア 登録販売者が一般の生活者へ情報提供するにあたり、セルフメディケーションを的確に推進するため、症状が重い場合であっても、医療機関の受診ではなく一般用医薬品による対処を勧めることが適切である。
- イ 体調不良や軽度の症状等について一般用医薬品を使用して対処した場合であっても、一定期間若しくは一定回数使用しても症状の改善が見られない又は悪化したときには、医療機関を受診して医師の診療を受ける必要がある。
- ウ 一般用医薬品にも使用すればドーピングに該当する成分を含んだものがあるため、登録販売者は、スポーツ競技者から相談があった場合は、専門知識を有する薬剤師などへの確認が必要である。
- エ 一般用医薬品で対処可能な症状等の範囲は、医薬品を使用する人によって変わるものであり、例えば、乳幼児や妊婦等では、通常の成人の場合に比べ、その範囲は限られる。

	ア	イ	ウ	エ
1	正	正	正	正
2	正	誤	誤	正
3	誤	正	正	正
4	誤	正	誤	誤
5	誤	誤	正	誤

## 【医薬品に共通する特性と基本的な知識】

### 問6

医薬品の副作用に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせを下から一つ選びなさい。

- ア 世界保健機関（WHO）の定義によれば、疾病の予防のために人に通常用いられる量で発現する医薬品の有害かつ意図しない反応は、医薬品の副作用ではないとされている。
- イ 眠気や口渴等の比較的よく見られる症状は副作用とはされないが、日常生活に支障を来す程度の健康被害を生じる重大なものは副作用とされる。
- ウ 一般用医薬品は、重大な副作用の兆候が現れたときでも、使用中断による不利益を回避するため、基本的に使用を継続することが必要である。
- エ 副作用は、血液や内臓機能への影響等のように、明確な自覚症状として現れないことがある。

	ア	イ	ウ	エ
1	正	正	正	正
2	正	正	誤	正
3	正	誤	誤	誤
4	誤	正	正	誤
5	誤	誤	誤	正

## 【医薬品に共通する特性と基本的な知識】

### 問7

一般用医薬品の適正使用に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせを下から一つ選びなさい。

- ア 一般用医薬品の場合、その使用を判断する主体が一般の生活者であることから、その適正な使用を図っていく上で、販売時における専門家の関与が重要である。
- イ 手軽に入手できる一般用医薬品では、長期連用しても精神的な依存が起こることはない。
- ウ 便秘薬や総合感冒薬、解熱鎮痛薬などは長期連用すれば、その症状を抑えていることで重篤な疾患の発見が遅れたり、肝臓や腎臓などを傷めたりする可能性もある。
- エ 医薬品を本来の目的以外の意図で、定められた用量を意図的に超えて服用したり、みだりに他の医薬品や酒類と一緒に摂取したりするといった乱用がなされると、過量摂取による急性中毒を生じる危険性が高くなる。

	ア	イ	ウ	エ
1	正	正	正	正
2	正	正	誤	誤
3	正	誤	正	正
4	誤	正	正	誤
5	誤	誤	誤	正

## 【医薬品に共通する特性と基本的な知識】

### 問8

医薬品の相互作用に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせを下から一つ選びなさい。

- ア 複数の医薬品を併用した場合、医薬品の作用が増強したり、減弱したりすることを相互作用という。
- イ 相互作用を回避するには、ある医薬品を使用している期間やその前後を通じて、その医薬品との相互作用を生じるおそれのある医薬品や食品の摂取を控えなければならないのが通常である。
- ウ 一般用医薬品は安全性が比較的高いため、緩和を図りたい症状が明確である場合でも、本人が自覚していない症状に対しても効果が得られるように、様々な症状に合った複数の成分が配合された医薬品を選択することが望ましい。
- エ 相互作用は、医薬品が吸收、分布、代謝又は排泄される過程で起こることはなく、医薬品が薬理作用をもたらす部位において起こるものである。

	ア	イ	ウ	エ
1	正	正	正	誤
2	正	正	誤	誤
3	正	誤	正	正
4	誤	正	誤	正
5	誤	誤	誤	誤

## 【医薬品に共通する特性と基本的な知識】

### 問9

医薬品と食品の相互作用に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせを下から一つ選びなさい。

- ア 酒類をよく摂取する者では、肝臓の代謝機能が高まっていることが多い、肝臓での代謝によって產生する物質（代謝産物）に薬効があるもの場合には、作用が強く出ることがある。
- イ ハーブを含む食品と生薬成分が配合された医薬品と一緒に摂取すると、生薬成分が配合された医薬品の副作用が増強することがある。
- ウ 食品と医薬品の相互作用はしばしば「飲み合わせ」と表現される。
- エ 外用薬は、食品によって医薬品の作用や代謝に影響を受けることはない。

	ア	イ	ウ	エ
1	正	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	誤	誤
4	誤	正	正	誤
5	誤	誤	正	正

## 【医薬品に共通する特性と基本的な知識】

### 問10

小児等の医薬品の使用に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせを下から一つ選びなさい。

- ア 「医療用医薬品の添付文書等の記載要領の留意事項」（平成29年6月8日付け薬生安発0608第1号厚生労働省医薬・生活衛生局安全対策課長通知別添）において、小児とは、およその目安として1歳以上、7歳未満をいう。
- イ 小児は、肝臓や腎臓の機能が未発達であるため、医薬品の成分の代謝・排泄<sup>せつ</sup>に時間がかかり、作用が強く出過ぎることがあるが、副作用がより強く出ることはない。
- ウ 小児は、大人と比べて身体の大きさに対して腸が短く、服用した医薬品の吸收率が相対的に低い。
- エ 医薬品が喉につかえると、咳き込んで吐き出し苦しむことになり、その体験から乳幼児に医薬品の服用に対する拒否意識を生じさせることがある。

	ア	イ	ウ	エ
1	正	正	正	正
2	正	誤	正	誤
3	正	誤	誤	正
4	誤	正	誤	誤
5	誤	誤	誤	正

## 【医薬品に共通する特性と基本的な知識】

### 問11

高齢者の医薬品の使用に関する以下の記述のうち、正しいものの組み合わせを下から一つ選びなさい。

- ア 「医療用医薬品の添付文書等の記載要領の留意事項」（平成29年6月8日付け薬生安発0608第1号厚生労働省医薬・生活衛生局安全対策課長通知別添）において、高齢者とは、およそその目安として70歳以上をいう。
- イ 高齢者は、喉の筋肉が衰えて飲食物を飲み込む力が弱まっている（嚥下障害<sup>えん</sup>）場合があり、内服薬を使用する際に喉に詰まらせやすい。
- ウ 高齢者の生理機能の衰えの度合いは個人差が小さいので、副作用を生じるリスクの増大の程度を年齢から判断できる。
- エ 高齢者によくみられる傾向として、医薬品の説明を理解するのに時間がかかる場合や、細かい文字が見えづらく、添付文書や製品表示の記載を読み取るのが難しい場合があり、情報提供や相談対応において特段の配慮が必要となる。

1(ア、イ) 2(ア、ウ) 3(イ、エ) 4(ウ、エ)

## 【医薬品に共通する特性と基本的な知識】

### 問1 2

次の医薬品の購入者への対応に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせを下から一つ選びなさい。

成人女性がドラッグストア（店舗販売業）に来店し、総合感冒薬及び便秘薬（いずれも第二類医薬品）を購入しようと登録販売者のいるレジにやってきた。当該成人女性は購入しようとする医薬品について事前の相談はしていない状況である。

- ア 妊娠の有無やその可能性については、購入者等にとって他人に知られたくない場合もあることから、登録販売者が情報提供や相談対応を行う際には、十分に配慮することが必要である。
- イ 総合感冒薬に含まれるビタミンCは、妊娠前後の一定期間に通常の用量を超えて摂取すると胎児に先天異常を起こす危険性が高まるとされているため、積極的な情報収集とそれに基づく情報提供が重要である。
- ウ 購入者（服用者）が医療機関・薬局で交付された薬剤を使用している場合は、一般用医薬品との併用の可否の判断が困難なことが多いため、その薬剤を処方した医師若しくは歯科医師又は調剤を行った薬剤師に相談するよう説明する。
- エ 便秘薬は配合成分やその用量によって流産や早産を誘発するおそれがあるため、積極的な情報収集とそれに基づく情報提供が重要である。

	ア	イ	ウ	エ
1	正	正	正	正
2	正	誤	正	正
3	正	誤	誤	誤
4	誤	正	正	誤
5	誤	正	誤	正

## 【医薬品に共通する特性と基本的な知識】

### 問13

プラセボ効果に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせを下から一つ選びなさい。

- ア 医薬品を使用したときにもたらされる反応や変化には、薬理作用によるものほか、プラセボ効果によるものが含まれている。
- イ プラセボ効果によってもたらされる反応や変化には、望ましいもの（効果）と不都合なもの（副作用）がある。
- ウ プラセボ効果は、主観的な変化だけでなく、客観的に測定可能な変化として現れることもあるため、その変化を目的として医薬品を使用することが推奨される。
- エ プラセボ効果は、医薬品を使用したこと自体による楽観的な結果への期待（暗示効果）が関与して生じる場合がある。

	ア	イ	ウ	エ
1	正	正	正	正
2	正	正	誤	正
3	正	誤	誤	誤
4	誤	正	正	誤
5	誤	誤	誤	正

## 【医薬品に共通する特性と基本的な知識】

### 問14

医薬品の品質に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせを下から一つ選びなさい。

- ア 医薬品は、適切な保管・陳列がなされなければ、医薬品の効き目が低下することはあるが、人体に好ましくない作用をもたらす物質を生じることはない。
- イ 医薬品は、高温や多湿によって品質の劣化を起こしやすいものが多いが、光（紫外線）による劣化はない。
- ウ 医薬品の外箱等に記載されている「使用期限」は、未開封状態で適切に保管された場合に、品質が保持される期限である。
- エ 一般用医薬品は、家庭の常備薬として購入されることも多いため、外箱等に記載されている使用期限から十分な余裕をもって販売することは重要である。

	ア	イ	ウ	エ
1	正	正	誤	正
2	正	誤	正	誤
3	誤	正	正	誤
4	誤	誤	正	正
5	誤	誤	誤	正

## 【医薬品に共通する特性と基本的な知識】

### 問15

セルフメディケーションに関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせを下から一つ選びなさい。

- ア 一般用医薬品の販売等を行う登録販売者は、一般用医薬品等に関する正確で最新の知識を常に修得するよう心がけることが望まれる。
- イ 一般用医薬品の情報提供は、使用する人に誤認が生じないよう正確な専門用語を用い、相手によって表現を変えることのないよう注意して行う。
- ウ 地域住民の健康相談を受け、一般用医薬品の販売や必要な時は医療機関の受診を勧める業務はセルフメディケーションの推進に欠かせない。
- エ 平成29年1月からは、条件を満たした場合にスイッチOTC医薬品の購入の対価について、一定の金額をその年分の総所得金額等から控除するセルフメディケーション税制が導入され、令和4年1月の見直しにより、全ての一般用医薬品が税制の対象となっている。

	ア	イ	ウ	エ
1	正	正	誤	正
2	正	誤	正	正
3	正	誤	正	誤
4	誤	正	正	誤
5	誤	誤	誤	誤

## 【医薬品に共通する特性と基本的な知識】

### 問16

アレルギー（過敏反応）に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせを下から一つ選びなさい。

- ア 通常の免疫反応の場合、炎症やそれに伴って発生する痛み、発熱等は、人体にとって有害なものを体内から排除するための必要な過程である。
- イ アレルゲンとなり得る添加物としては、黄色4号（タートラジン）、カゼイン、亜硫酸塩（亜硫酸ナトリウム、ピロ硫酸カリウム等）が知られている。
- ウ アレルギーは一般的に特定の物質によって起こるものであるため、普段から使用している医薬品が原因でアレルギーが生じることはない。
- エ 医薬品の中には、鶏卵や牛乳等を原材料として作られているものがあるため、それらに対するアレルギーがある人では使用を避けなければならない場合がある。

	ア	イ	ウ	エ
1	正	正	誤	正
2	正	誤	正	誤
3	正	誤	誤	正
4	誤	正	誤	誤
5	誤	誤	正	正

### 問17

以下のうち、一般用医薬品の役割として、誤っているものを一つ選びなさい。

- 1 健康の維持・増進
- 2 生活習慣病等の疾病に伴う症状の治療
- 3 軽度な疾病に伴う症状の改善
- 4 生活の質（QOL）の改善・向上
- 5 健康状態の自己検査

## 【医薬品に共通する特性と基本的な知識】

### 問18

一般用医薬品の販売時のコミュニケーションに関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせを下から一つ選びなさい。

- ア 購入者等があらかじめ購入する医薬品を決めている場合は、登録販売者が購入者等の個々の状況把握に努める必要はない。
- イ 医薬品の適正な使用のために必要な情報は、基本的に添付文書や製品表示に記載されているが、それらの記載は一般的・網羅的な内容となっているため、個々の購入者や使用者にとって、どの記載内容が当てはまり、どの注意書きに特に留意すべきなのか等について適切に理解することは必ずしも容易ではない。
- ウ 購入者等の状況を把握するため、一般用医薬品の使用目的のみを簡潔に確認するよう努める。
- エ 購入者等が医薬品を使用する状況は、隨時変化する可能性があるため、販売数量は一時期に使用する必要量とする等、販売時のコミュニケーションの機会が継続的に確保されるよう配慮することが重要である。

	ア	イ	ウ	エ
1	正	正	正	誤
2	正	誤	誤	正
3	誤	正	誤	正
4	誤	正	誤	誤
5	誤	誤	正	誤

## 【医薬品に共通する特性と基本的な知識】

### 問19

サリドマイド訴訟及びHIV訴訟に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせを下から一つ選びなさい。

- ア サリドマイド訴訟は、サリドマイド製剤を妊娠している女性が使用したことにより、出生児に四肢欠損、耳の障害等の先天異常が発生したことに対する損害賠償訴訟である。
- イ HIV訴訟は、血友病患者が、ヒト免疫不全ウイルス（HIV）が混入した原料血漿から製造された血液凝固因子製剤の投与を受けたことにより、HIVに感染したことに対する損害賠償訴訟である。
- ウ サリドマイド訴訟は、国及び製薬企業を被告として提訴され、現在でも和解は成立していない。
- エ HIV訴訟を契機として、1979年、医薬品の副作用による健康被害の迅速な救済を図るため、医薬品副作用被害救済制度が創設された。

	ア	イ	ウ	エ
1	正	正	誤	正
2	正	正	誤	誤
3	正	誤	正	誤
4	誤	正	正	正
5	誤	誤	誤	正

## 【医薬品に共通する特性と基本的な知識】

### 問20

クロイツフェルト・ヤコブ病（CJD）訴訟及びスモン訴訟に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせを下から一つ選びなさい。

- ア CJD訴訟は、キノホルム製剤を使用したことによりCJDに罹患したことに対する損害賠償訴訟である。<sup>19</sup>
- イ CJDは、ウイルスの一種であるプリオンが原因であるとされている。
- ウ スモン訴訟は、脳外科手術等に用いられていたヒト乾燥硬膜を介して、亜急性脊髄視神経症に罹患したことに対する損害賠償訴訟である。<sup>19</sup>
- エ キノホルム製剤は、一般用医薬品として販売されていたことはない。

	ア	イ	ウ	エ
1	正	正	誤	正
2	正	誤	正	正
3	正	誤	正	誤
4	誤	正	正	誤
5	誤	誤	誤	誤

## 【人体の働きと医薬品】

### 問2 1

消化器系の内臓器官に関する以下の記述のうち、正しいものの組み合わせを下から一つ選びなさい。

- ア 咽頭は、口腔から食道に通じる食物路と、呼吸器の気道が交わるところである。
- イ 胃粘液に含まれる成分は、小腸におけるビタミンB2の吸収に重要な役割を果たしている。
- ウ 大腸の粘膜上皮細胞は、腸内細菌が食物纖維を分解して生じる栄養分を、その活動に利用している。
- エ 肝臓は、必須アミノ酸を含むアミノ酸を生合成することができる。

1 (ア、イ)    2 (ア、ウ)    3 (イ、エ)    4 (ウ、エ)

### 問2 2

脾臓に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせを下から一つ選びなさい。

- ア 脾臓は、タンパク質、炭水化物、脂質のそれぞれを消化するすべての酵素の供給を担う。
- イ 脾臓は、消化腺であるが内分泌腺としての機能はない。
- ウ 脾液は、弱酸性であり、十二指腸へ分泌される。
- エ 脾臓は、胃の後下部に位置する細長い臓器である。

	ア	イ	ウ	エ
1	正	正	誤	誤
2	正	誤	正	正
3	正	誤	誤	正
4	誤	正	誤	正
5	誤	誤	誤	誤

## 【人体の働きと医薬品】

### 問 2 3

肝臓の代謝に関する以下の記述について、( )の中に入れるべき字句の正しい組み合わせを下から一つ選びなさい。なお、同じ記号の ( ) 内には同じ字句が入ります。

アルコールは、胃や小腸で吸収されるが、肝臓へと運ばれて一度アセトアルデヒドに代謝されたのち、さらに代謝されて( ア )となる。ヘモグロビンが分解して生じた( イ )も肝臓で代謝される。( イ )が循環血液中に滞留すると、<sup>だん</sup>黄疸を生じる。

	ア	イ
1	コール酸	リボフラビン
2	酢酸	リボフラビン
3	アンモニア	リボフラビン
4	コール酸	ビリルビン
5	酢酸	ビリルビン

### 問 2 4

呼吸器系に関する以下の記述のうち、誤っているものを一つ選びなさい。

- 1 呼吸器は様々な異物、病原物質の侵入経路となるため、幾つもの防御機構が備わっている。
- 2 鼻腔の内壁は、粘膜で覆われた棚状の凸凹になっており、吸入された空気との接触面積が広いため、吸入された空気に効率よく適度な湿り気と温もりを与える。
- 3 喉頭は、発声器としての役割もあり、主に吸気で喉頭上部にある声帯を振動させて、声が発せられる。
- 4 肺自体には肺を動かす筋組織がないため、自力で膨らんだり縮んだりしない。

## 【人体の働きと医薬品】

### 問25

血球とその性質等に関する以下の組み合わせについて、正しいものを一つ選びなさい。

	血球	性質等
1	赤血球	リンパ節、脾臓等のリンパ組織で増殖し、細菌、ウイルス等の異物を認識したり、それらに対する抗体を産生したりする。
2	好中球	血液を凝固させる酵素を放出する。
3	血小板	体内に侵入した細菌やウイルス等の異物に対する防御を受け持つ。
4	リンパ球	白血球の中で最も数が多く、白血球の約60%を占める。
5	単球	血管壁を通り抜けて組織の中に入り込むことができ、強い食作用を持つ。

### 問26

腎臓に関する以下の記述について、(　　)の中に入れるべき字句の正しい組み合わせを下から一つ選びなさい。なお、同じ記号の(　　)内には同じ字句が入ります。

腎臓に入る動脈は細かく枝分かれし、毛細血管が(　　ア　　)を形成する。(　　ア　　)の外側を(　　イ　　)が包み込んでおり、これを(　　ウ　　)という。(　　ウ　　)と尿細管とで腎臓の基本的な機能単位を構成している。

	ア	イ	ウ
1	ボウマン <sup>のう</sup> 嚢	腎小体	ネフロン
2	ボウマン <sup>のう</sup> 嚢	糸球体	ネフロン
3	糸球体	ネフロン	ボウマン <sup>のう</sup> 嚢
4	糸球体	ネフロン	腎小体
5	糸球体	ボウマン <sup>のう</sup> 嚢	腎小体

## 【人体の働きと医薬品】

### 問27

感覚器官に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせを下から一つ選びなさい。

- ア 眼瞼<sup>けん</sup>は、浮腫等、全身的な体調不良（薬の副作用を含む）の症状が現れやすい。
- イ 涙液は、起きている間は絶えず分泌されており、目頭の内側にある涙点から涙道に流れ込んでいる。
- ウ 副鼻腔<sup>くう</sup>は、鼻腔<sup>くう</sup>に隣接した目と目の間、額部分、頬の下、鼻腔<sup>くう</sup>の奥の空洞の総称である。
- エ 鼓室は、耳管という管で鼻腔<sup>くう</sup>や咽頭と通じており、急な気圧変化のため鼓膜の内外に気圧差が生じると、耳がつまつたような痛みなどを感じる。

	ア	イ	ウ	エ
1	正	正	正	正
2	正	誤	正	正
3	正	誤	誤	誤
4	誤	正	誤	正
5	誤	誤	正	誤

## 【人体の働きと医薬品】

### 問28

外皮系に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせを下から一つ選びなさい。

- ア 汗腺には、手のひらなどに分布するエクリン腺と腋窩などに分布するアポクリン腺の二種類がある。
- イ 爪や毛等の角質は、皮膚の一部が変化してできている。
- ウ メラニン色素は、表皮の最上層にあるメラニン産生細胞（メラノサイト）で産生され、太陽光に含まれる紫外線から皮膚組織を防護する。
- エ 立毛筋と皮脂腺はつながっており、立毛筋は気温や感情の変化などの刺激で弛緩し、毛穴が隆起する立毛反射が生じる。

	ア	イ	ウ	エ
1	正	正	正	誤
2	正	正	誤	誤
3	正	誤	正	正
4	誤	正	誤	正
5	誤	誤	正	誤

### 問29

骨格系及び筋組織に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせを下から一つ選びなさい。

- ア 骨の関節面は、弾力性に富む軟骨層に覆われ、関節周囲は滑膜に包まれている。
- イ 骨は生きた組織であり、一生を通じて破壊（骨吸収）と修復（骨形成）が行われている。
- ウ 筋組織と腱は、どちらも筋細胞及び結合組織からできており、伸縮性がある。
- エ 骨格筋の疲労は、グリコーゲンの代謝に伴い生成する乳酸が蓄積して、筋組織の収縮性が低下する現象である。

	ア	イ	ウ	エ
1	正	正	誤	正
2	正	誤	正	誤
3	正	誤	誤	正
4	誤	正	誤	誤
5	誤	誤	正	正

## 【人体の働きと医薬品】

### 問30

脳や神経系の働きに関する以下の記述のうち、誤っているものを一つ選びなさい。

- 1 延髄には、心拍数を調節する心臓中枢と呼吸を調節する呼吸中枢がある。
- 2 視床下部は、ホルモン分泌の調節機能を担っている。
- 3 末梢神経系は、脊髄と自律神経系から構成される。
- 4 脳の血管は末梢血管に比べ、物質の透過に関する選択性が高い。

### 問31

交感神経系が優位に働いているときの効果器とその反応に関する以下の関係の正誤について、正しい組み合わせを下から一つ選びなさい。

	効果器	反応
ア	気管、気管支	収縮
イ	汗腺	発汗亢進 <sup>こう</sup>
ウ	肝臓	グリコーゲンの分解
エ	膀胱 <sup>ぼうこう</sup>	排尿筋の弛緩 <sup>し</sup>

- |   | ア | イ | ウ | エ |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 正 | 正 | 正 | 誤 |
| 2 | 正 | 誤 | 正 | 正 |
| 3 | 正 | 誤 | 誤 | 正 |
| 4 | 誤 | 正 | 正 | 正 |
| 5 | 誤 | 誤 | 誤 | 誤 |

## 【人体の働きと医薬品】

### 問3 2

薬が働く仕組みに関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせを下から一つ選びなさい。

- ア 錠剤は、胃と比較すると腸で有効成分が溶出するものがほとんどである。
- イ 一般的に、消化管での有効成分の吸収は、受容体やトランスポーターなどを介して、濃度の低い方から高い方へ能動的に行われ、消化管の毛細血管から血液中へ移行する。
- ウ 循環血液中に移行した有効成分が血液中で血漿タンパク質と複合体を形成すると、肝細胞の薬物代謝酵素による代謝を受けやすくなる。
- エ 有効成分は代謝を受けた結果、不活性化したり、作用が現れたり、あるいは体外へ排泄されやすい脂溶性の物質へ変化したりする。

	ア	イ	ウ	エ
1	正	正	誤	正
2	正	誤	正	正
3	正	誤	正	誤
4	誤	正	正	誤
5	誤	誤	誤	誤

### 問3 3

薬の体内での働きに関する以下の記述について、( )の中に入れるべき字句の適切な組み合わせを下から一つ選びなさい。

医薬品が摂取された後、成分が吸収されるにつれて、その血中濃度は上昇し、(ア)を超えたときに生体の反応として薬効が現れる。一度に大量の医薬品を摂取して、血中濃度がある濃度以上になると、より強い薬効が(イ)なり、有害な作用は(ウ)なる。

	ア	イ	ウ
1	最小有効濃度	得られやすく	現れにくく
2	最小有効濃度	得られなく	現れやすく
3	最高血中濃度	得られやすく	現れやすく
4	最高血中濃度	得られやすく	現れにくく
5	最高血中濃度	得られなく	現れやすく

## 【人体の働きと医薬品】

### 問3 4

医薬品の剤形に関する以下の記述のうち、正しいものの組み合わせを下から一つ選びなさい。

- ア 顆粒剤は、錠剤を飲み込むことが困難な人にとっても服用しやすく、噛み碎いて服用しても良い。
- イ 軟膏剤は、油性基剤に水分を加えたもので、皮膚への刺激が強い。
- ウ 経口液剤は錠剤（内服）と比較して、服用後、有効成分の血中濃度が上昇しやすい。
- エ 貼付剤は、皮膚に貼り付けて用いる剤形であり、パップ剤が分類される。

1（ア、イ） 2（ア、ウ） 3（イ、エ） 4（ウ、エ）

### 問3 5

ショック（アナフィラキシー）に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせを下から一つ選びなさい。

- 1 医薬品が原因物質であるショック（アナフィラキシー）は、以前にその医薬品によって蕁麻疹等のアレルギーを起こしたことがある人で起きる可能性が高い。
- 2 適切な対応が遅れるとチアノーゼや呼吸困難を生じることがある。
- 3 発症後の進行が非常に速やかなことが特徴であり、直ちに救急救命処置が可能な医療機関を受診する必要がある。
- 4 一般に、顔の紅潮、吐きけ、手足の冷感、冷や汗など複数の症状が現れる。

	ア	イ	ウ	エ
1	正	正	正	正
2	正	正	正	誤
3	正	誤	誤	誤
4	誤	正	誤	正
5	誤	誤	正	正

## 【人体の働きと医薬品】

### 問3 6

全身的に現れる副作用に関する以下の記述のうち、誤っているものを一つ選びなさい。

- 1 肝機能障害の主な症状に、全身の倦怠感、黄疸、皮膚の搔痒感がある。
- 2 偽アルドステロン症は、体からナトリウムと水が失われることで生じる。主な症状に、手足の脱力やこむら返り等がある。
- 3 血液中の血小板が減少することで、鼻血や手足の青あざ（紫斑）が現れることがある。
- 4 中毒性表皮壊死融解症（TEN）は、原因医薬品の使用開始後2週間以内に発症することが多い。

### 問3 7

精神神経系に現れる副作用に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせを下から一つ選びなさい。

- ア 眠気を催すことが知られている医薬品を使用した後は、乗物や機械類の運転操作に従事しないよう十分注意する必要がある。
- イ 震え（振戦）うつ等の精神神経症状は、医薬品を通常の用法・用量で使用する場合には発生することはない。
- ウ 無菌性髄膜炎は、全身性エリテマトーデスの基礎疾患がある人にイブプロフェンを使用すると発症しやすい。
- エ 無菌性髄膜炎は、早期に原因の医薬品の使用を中止すれば、速やかに回復し、予後は比較的良好であることが多く、重篤な中枢神経系の後遺症が残った例の報告はない。

	ア	イ	ウ	エ
1	正	正	誤	正
2	正	誤	正	誤
3	正	誤	誤	正
4	誤	正	誤	誤
5	誤	誤	正	正

## 【人体の働きと医薬品】

### 問38

呼吸器系に現れる副作用に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせを下から一つ選びなさい。

- ア 間質性肺炎は、肺胞と毛細血管が炎症を起こしたものである。
- イ 間質性肺炎を発症すると、肺胞と毛細血管の間のガス交換効率が低下して血液に酸素を十分取り込めなくなる。
- ウ 喘息は、<sup>ぜん</sup> 非ステロイド性抗炎症成分を含む解熱鎮痛薬などが原因で発症することがある。
- エ 喘息は、<sup>ぜん</sup> 内服薬や坐薬で誘発されるが、外用薬では誘発されない。

	ア	イ	ウ	エ
1	正	正	正	正
2	正	誤	正	誤
3	誤	正	正	誤
4	誤	正	誤	誤
5	誤	誤	誤	正

### 問39

感覚器系に現れる副作用に関する以下の記述について、( )の中に入れるべき字句の正しい組み合わせを下から一つ選びなさい。

眼球内の角膜と(ア)の間を満たしている眼房水が排出されにくくなると、眼圧が上昇し、視覚障害を生じることがある。抗コリン作用がある成分が配合された医薬品は、特に緑内障により隅角が(イ)なっている人が使用する際には、眼圧上昇に厳重な注意が必要である。

	ア	イ
1	毛様体	広く
2	毛様体	狭く
3	水晶体	広く
4	水晶体	狭く
5	結膜	広く

## 【人体の働きと医薬品】

### 問40

皮膚に現れる副作用に関する以下の記述のうち、誤っているものを一つ選びなさい。

- 1 薬疹は、あらゆる医薬品で起きる可能性があるアレルギー反応の一種である。
- 2 医薬品を使用した後の痒みの症状に対して、一般の生活者が自己判断による対症療法を行うことは避けるべきである。
- 3 貼付剤による光線過敏症は、剥がした後に発症することもある。
- 4 接触皮膚炎はいわゆる「肌に合わない」という状態で、発症部位は医薬品の接触部位に限定されない。

## 【医薬品の適正使用・安全対策】

### 問4 1

医薬品の副作用等の報告制度に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせを下から一つ選びなさい。

- ア 医療用医薬品のみならず、一般用医薬品に関しても、承認後の調査が製造販売業者に求められている。
- イ 製造販売業者には、その製造販売した医薬品の使用によるものと疑われる感染症の発生を知ったときは、厚生労働大臣への報告が義務づけられている。
- ウ 医療用医薬品で使用されていた有効成分を一般用医薬品で初めて配合したものについては、承認後の一定期間（概ね3年）安全性に関する調査及び調査結果の報告が求められている。
- エ 登録販売者は、製造販売業者が行う情報収集に協力するよう努めなければならない。

	ア	イ	ウ	エ
1	正	正	正	正
2	正	正	誤	正
3	正	誤	誤	誤
4	誤	正	正	誤
5	誤	誤	正	正

### 問4 2

以下の医薬品成分のうち、その成分が配合された一般用医薬品の添付文書において、「相談すること」の項目中に「糖尿病の診断を受けた人」と記載されるものの組み合わせを下から一つ選びなさい。

- ア パパベリン塩酸塩
- イ トリメトキノール塩酸塩水和物
- ウ グリチルリチン酸二カリウム
- エ マオウ

1（ア、イ） 2（ア、ウ） 3（イ、エ） 4（ウ、エ）

## 【医薬品の適正使用・安全対策】

### 問4 3

一般用医薬品の添付文書における「してはいけないこと」の項に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせを下から一つ選びなさい。

- ア しゃくやくかんぞうとう芍薬甘草湯は、徐脈又は頻脈を引き起こし、心臓病の症状を悪化させるおそれがあるため、心臓病の人は使用しないこととされている。
- イ アミノ安息香酸エチルは、メトヘモグロビン血症を起こすおそれがあるため、15歳未満の小児には使用しないこととされている。
- ウ ケトプロフェンは、光線過敏症が現れるおそれがあるため、外出時には本剤の塗布部を衣服等で覆い、紫外線に当てないこととされている。
- エ 口ペラミド塩酸塩は、眠気が懸念される成分とはされていないため、服用後、乗物又は機械類の運転操作をしても問題ない。

	ア	イ	ウ	エ
1	正	正	誤	正
2	正	誤	正	正
3	正	誤	正	誤
4	誤	正	正	正
5	誤	誤	誤	誤

## 【医薬品の適正使用・安全対策】

### 問4 4

一般用医薬品の添付文書の記載事項に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせを下から一つ選びなさい。

- ア 病気の予防・症状の改善につながる事項(いわゆる「養生訓」)は、添付文書の必須記載事項である。
- イ 購入者等からの相談に応じるための製造販売業者の窓口担当部門の名称、電話番号、受付時間等が記載されている。
- ウ 守らないと症状が悪化する事項、副作用又は事故等が起こりやすくなる事項については、使用上の注意における「その他の注意」に記載されている。
- エ 薬効名とは、その医薬品の薬効又は性質が簡潔なわかりやすい表現で示されたもので、販売名に薬効名が含まれている場合であっても、必ず記載されなければならない。

	ア	イ	ウ	エ
1	正	正	誤	正
2	正	誤	正	誤
3	誤	正	正	誤
4	誤	正	誤	誤
5	誤	誤	正	正

### 問4 5

以下の医薬品成分を含有する胃腸薬の添付文書において、長期間服用した場合に、アルミニウム脳症及びアルミニウム骨症を発症したとの報告があるため、「次の人は使用(服用)しないこと」の項目中に「透析療法を受けている人」と記載されるものの組み合わせを下から一つ選びなさい。

- ア スクラルファート
- イ テプレノン
- ウ アルジオキサ
- エ 銅クロロフィリンカリウム

1(ア、イ) 2(ア、ウ) 3(イ、エ) 4(ウ、エ)

## 【医薬品の適正使用・安全対策】

### 問4 6

医薬品医療機器等法第68条の10第2項の規定に基づき、医薬関係者に義務付けられている医薬品の副作用等の報告に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせを下から一つ選びなさい。

- ア 医薬品との因果関係が必ずしも明確でない場合であっても、報告の対象となり得る。
- イ 安全対策上必要があると認めるときは、医薬品の過量使用や誤用等によるものと思われる健康被害についても、報告する必要がある。
- ウ 購入者等（健康被害を生じた本人に限らない）から適切に情報を把握し、報告様式の記入欄すべてに必要事項を記入しなければならない。
- エ 報告様式は、独立行政法人医薬品医療機器総合機構のホームページから入手できる。

	ア	イ	ウ	エ
1	正	正	正	正
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	誤
4	誤	正	誤	誤
5	誤	誤	正	正

## 【医薬品の適正使用・安全対策】

### 問4 7

医薬品副作用被害救済制度に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせを下から一つ選びなさい。

- ア 医薬品副作用被害救済制度は、製薬企業の社会的責任に基づく公的制度として運営が開始された。
- イ 救済給付業務に必要な費用のうち、給付費については、製造販売業者から年度ごとに納付される拠出金が充てられる。
- ウ 生物由来製品感染等被害救済制度は、生物由来製品を介した感染等による健康被害の迅速な救済を図ることを目的として創設された。
- エ 給付請求は、健康被害を受けた本人又は家族だけではなく、治療に当たった医師や調剤した薬剤師も行うことができる。

	ア	イ	ウ	エ
1	正	正	正	誤
2	正	正	誤	誤
3	正	誤	正	正
4	誤	正	誤	正
5	誤	誤	正	誤

## 【医薬品の適正使用・安全対策】

### 問4 8

医薬品副作用被害救済制度における給付の種類及び請求の手続きに関する以下の記述のうち、正しいものの組み合わせを下から一つ選びなさい。

- ア 医療手当は、医薬品の副作用による疾病（入院治療を必要とする程度）の治療に要した費用の実費を補償するものである。
- イ 遺族年金は、生計維持者が医薬品の副作用により死亡した場合に、その遺族の生活の立て直し等を目的に、10年間を限度として給付される。
- ウ 救済給付の請求に当たっては、医師の診断書や、要した医療費を証明する書類（受診証明書）が必要だが、その医薬品を販売等した薬局開設者、医薬品の販売業者が作成した販売証明書等は不要である。
- エ 障害児養育年金は、医薬品の副作用により一定程度の障害の状態にある18歳未満の人を養育する人に対して給付されるものである。

1（ア、イ） 2（ア、ウ） 3（イ、エ） 4（ウ、エ）

### 問4 9

一般用医薬品の安全対策に関する以下の記述のうち、正しいものの組み合わせを下から一つ選びなさい。

- ア 解熱鎮痛成分としてアミノピリン、スルピリンが配合されたアンプル入りかぜ薬の使用によるショックが発生したことを踏まえ、厚生省（当時）は、関係製薬企業に対し、アンプル入りかぜ薬製品の回収を要請した。
- イ 一般用かぜ薬の使用によると疑われる間質性肺炎の発生事例が複数報告されたため、厚生労働省は、報告のあった製品のみを対象として使用上の注意の改訂を指示した。
- ウ 小柴胡湯しょうさいことうとインターフェロン製剤の併用例による間質性肺炎が報告されたことから、小柴胡湯しょうさいことうについてインターフェロン製剤との併用を禁忌とする旨の使用上の注意が改訂された。
- エ 塩酸フェニルプロパノールアミンが配合された一般用医薬品による偽アルドステロン症の副作用症例が複数報告され、厚生労働省は、代替成分としてブソイドエフェドリン塩酸塩等への速やかな切替えを指示した。

1（ア、イ） 2（ア、ウ） 3（イ、エ） 4（ウ、エ）

## 【医薬品の適正使用・安全対策】

### 問50

医薬品の適正使用のための啓発活動に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせを下から一つ選びなさい。

- ア 薬物乱用防止を一層推進するため、毎年6月20日～7月19日までの1ヶ月間、国、自治体、関係団体等により、「ダメ。ゼッタイ。」普及運動が実施されている。
- イ 医薬品の適正使用の重要性に関して、小中学生のうちからの啓発が重要である。
- ウ 登録販売者は、適切なセルフメディケーションの普及定着及び医薬品の適正使用の推進のための啓発活動に積極的に参加、協力することが期待されている。
- エ 薬物乱用や薬物依存は、違法薬物（麻薬、覚醒剤、大麻等）によるものであり、一般用医薬品では生じ得ない。

	ア	イ	ウ	エ
1	正	正	正	正
2	正	正	正	誤
3	正	誤	誤	正
4	誤	正	誤	誤
5	誤	誤	正	誤

## 【医薬品の適正使用・安全対策】

### 問5 1

緊急安全性情報に関する以下の記述について、(　　)の中に入れるべき字句の正しい組み合わせを下から一つ選びなさい。

緊急安全性情報は、医薬品、医療機器又は再生医療等製品について緊急かつ重大な注意喚起や使用制限に係る対策が必要な状況にある場合に、(　ア　)からの命令、指示、製造販売業者の自主決定等に基づいて作成される。製造販売業者及び行政当局による報道発表、独立行政法人医薬品医療機器総合機構による医薬品医療機器情報配信サービスによる配信( P M D A メディナビ ) 製造販売業者から医療機関や薬局等への直接配布、ダイレクトメール、電子メール等による情報提供等により(　イ　)以内に情報伝達されるものである。A 4 サイズの印刷物で、(　ウ　)とも呼ばれる。

	ア	イ	ウ
1	厚生労働省	3ヶ月	ブルーレター
2	独立行政法人医薬品医療機器総合機構	3ヶ月	ブルーレター
3	厚生労働省	1ヶ月	イエローレター
4	独立行政法人医薬品医療機器総合機構	1ヶ月	イエローレター
5	厚生労働省	1ヶ月	ブルーレター

## 【医薬品の適正使用・安全対策】

### 問5 2

副作用情報等の評価及び措置に関する以下の記述について、( )の中に入れるべき字句の正しい組み合わせを下から一つ選びなさい。

医薬品・医療機器等安全性情報報告制度等の各制度により集められた副作用情報については、(ア)において専門委員の意見を聞きながら調査検討が行われ、その結果に基づき、(イ)は、薬事審議会の意見を聴いて、使用上の注意の改訂の指示等を通じた注意喚起のための情報提供や、効能・効果や用法・用量の一部変更、調査・実験の実施の指示、製造・販売の中止、製品の回収等の安全対策上必要な行政措置を講じている。

	ア	イ
1	独立行政法人医薬品医療機器総合機構	厚生労働大臣
2	独立行政法人医薬品医療機器総合機構	国立医薬品食品衛生研究所長
3	日本製薬団体連合会	独立行政法人医薬品医療機器総合機構理事長
4	日本製薬団体連合会	国立医薬品食品衛生研究所長
5	日本製薬団体連合会	厚生労働大臣

### 問5 3

医薬品PLセンターに関する以下の記述について、( )の中に入れるべき字句の正しい組み合わせを下から一つ選びなさい。

医薬品PLセンターは、日本製薬団体連合会において、平成7年7月の製造物責任法（平成6年法律第85号）の施行と同時に開設された。消費者が、医薬品又は(ア)に関する苦情（健康被害以外の損害も含まれる）について(イ)と交渉するに当たって、公平・中立な立場で申立ての相談を受け付け、交渉の仲介や調整・あっせんを行い、(ウ)な解決に導くことを目的としている。

	ア	イ	ウ
1	医薬部外品	厚生労働省	裁判によらずに迅速
2	医薬部外品	製造販売元の企業	裁判によらずに迅速
3	医療機器	製造販売元の企業	裁判によらずに迅速
4	医療機器	厚生労働省	裁判による法的
5	医療機器	製造販売元の企業	裁判による法的

## 【医薬品の適正使用・安全対策】

### 問5 4

医薬品副作用被害救済制度の救済給付の支給対象範囲に関する以下の記述のうち、正しいものの組み合わせを下から一つ選びなさい。

- ア 製品不良など、製薬企業に損害賠償責任がある場合は、救済制度の対象となる。
- イ 個人輸入により入手された無承認無許可医薬品による健康被害は、救済制度の対象となる。
- ウ 殺菌消毒剤（人体に直接使用するものを除く）の使用による健康被害は、救済制度の対象とならない。
- エ 一般用検査薬の使用による健康被害は、救済制度の対象とならない。

1 (ア、イ)    2 (ア、ウ)    3 (イ、エ)    4 (ウ、エ)

### 問5 5

以下の一般用医薬品のうち、その添付文書の「してはいけないこと」の項目に、「授乳中の人には本剤を服用しないか、本剤を服用する場合は授乳を避けること」と記載されるものの組み合わせを下から一つ選びなさい。

- ア デキストロメトルファン臭化水素酸塩水和物が配合されたかぜ薬
- イ 水酸化アルミニウムゲルが配合された胃腸鎮痛鎮痙薬
- ウ テオフィリンが配合された鎮咳去痰薬
- エ センノシドが配合された瀉下薬

1 (ア、イ)    2 (ア、ウ)    3 (イ、エ)    4 (ウ、エ)

## 【医薬品の適正使用・安全対策】

### 問5 6

イブプロフェンを含有する一般用医薬品の添付文書の「してはいけないこと」の項目に関する以下の記述について、(　　)の中に入れるべき字句の正しい組み合わせを下から一つ選びなさい。

イブプロフェンは、妊娠期間の(　ア　　)胎児の動脈管の収縮・早期閉鎖、子宮収縮の(　イ　　)分娩時出血の増加のおそれがあるため、出産予定日(　ウ　　)週以内の妊婦に対して、使用(服用)しないこととしている。

	ア	イ	ウ
1	延長	抑制	1 2
2	延長	促進	2 4
3	短縮	抑制	1 2
4	短縮	促進	1 2
5	短縮	抑制	2 4

### 問5 7

一般用医薬品の添付文書の「相談すること」の項目中に、「次の診断を受けた人」と記載される基礎疾患等と、主な成分に関する以下の組み合わせについて、正しいものを一つ選びなさい。

	基礎疾患等	主な成分
1	甲状腺機能障害	- 硫酸ナトリウム
2	心臓病	- 酸化マグネシウム
3	血栓のある人	- トランキサム酸(内服)
4	てんかん	- 合成ヒドロタルサイト
5	腎臓病	- ジプロフィリン

## 【医薬品の適正使用・安全対策】

### 問5 8

医薬品の保管及び取扱い上の注意に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせを下から一つ選びなさい。

- ア シロップ剤は変質しやすいため、開封後は冷蔵庫内に保管されることが望ましい。
- イ 医薬品を旅行先に携行するために別の容器へ移し替えることは、誤用の原因となるおそれがある。
- ウ 点眼薬は、長期間の保存に適さないため、家族で共用し、できる限り早く使い切ることが望ましい。
- エ 可燃性ガスを噴射剤としているエアゾール製品については、消防法(昭和23年法律第186号)や高圧ガス保安法(昭和26年法律第204号)に基づき、その容器への注意事項の表示が義務づけられているが、添付文書において「保管及び取扱い上の注意」としても記載されている。

	ア	イ	ウ	エ
1	正	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	誤	誤
4	誤	正	正	誤
5	誤	誤	正	正

### 問5 9

以下の成分のうち、アスピリン喘息を誘発するおそれがあるため、一般用医薬品の添付文書等の「次の人は使用（服用）しないこと」の項目欄に「本剤又は他のかぜ薬、解熱鎮痛薬を使用（服用）してぜん喘息を起こしたことがある人」と記載されているものについて、正しいものを一つ選びなさい。

- ジフェンヒドラミン塩酸塩
- 酸化マグネシウム
- ジヒドロコデインリン酸塩
- 無水カフェイン
- イブプロフェン

## 【医薬品の適正使用・安全対策】

### 問60

クロルフェニラミンマレイン酸塩を含有する一般用医薬品である内服アレルギー用薬の添付文書等において、「使用上の注意」に記載されている事項に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせを下から一つ選びなさい。

- ア 緑内障の診断を受けた人は、「相談すること」とされている。
- イ 胃潰瘍の診断を受けた人は、「相談すること」とされている。
- ウ 眠気等が現れることがあるため、「服用後、乗物又は機械類の運転操作をしないこと」とされている。
- エ 一定期間又は一定回数服用しても症状の改善がみられない場合は、ほかに原因がある可能性があるため、「長期連用しないこと」とされている。

	ア	イ	ウ	エ
1	正	正	正	正
2	正	正	誤	誤
3	正	誤	正	正
4	誤	正	正	誤
5	誤	誤	誤	正